（ひかみちゃん）

ほだかの里だより

（ほだかくん）

ー大高歴史の会会報ー　第54号

令和6年（2024）　７月発行（夏号）

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上（ﾋｶﾐ）の里」、または、「火高（ﾎﾀﾞｶ）の里」と呼ばれていました。

第　54　号　　目　　次

子安神社　…　…　…　…　…　…　林潤一　…　P1～2
大高のできごとあれこれ・大高の行事催事　…　Ｐ３
大高歴史の会のあゆみ　……　……　……　Ｐ４
大高「山口」の歴史探索　……　山口初宏　Ｐ５～６

子安神社（こやすじんじゃ）

林　潤一

私の神社シリーズは、今回は大高から少し離れます。とは言っても地元の人たちにとっては良く知っている木の山（木の山芋や木の山人参の産地で有名）にある子安神社です。

私も大高に住むようになって４０年弱になりますが、犬の散歩で子安神社辺りまで出かけたことを今でも覚えています。今では周辺はずいぶん変わりました。道路の東側は工場や病院ができ北側の大高地区はカインズやコープと住宅街に様変わりしています。西側のみが昔のままの畑です。

子　安　神　社

（大府市共和町子安九十番地）

- 御祭神　木花咲耶姫命（ｺﾉﾊﾅﾉｻｸﾔﾋﾒﾉﾐｺﾄ）
- 境内社　津島社、皇大神宮、山之神社
  秋葉神社、金山彦社、金乃比羅宮
  弁財天
- 子安神社は知多四国八十八番札所の「円通寺」が別当を勤めていた神社
- 円通寺所蔵の「子安神社勧化帳」に「（前略）当地の円通寺境外の山之内に神社在り子安大明神を勧請す。行基菩薩開闢の前より安置する処にして往古より当郷の産神なり。（後略）文政二年七月」
- 子安神社の境内からは古墳時代の遺跡（*1）も見つかっている。
- 祭神が「木花咲耶姫命」という事から伊勢神宮皇大神宮（内宮）の境内社「子安神社」（*2）から勧請され創建されたか？

以上　ドクターレザーおかざき「店長」のあいちを巡る生活って　　より抜粋しました。

（*1）子安神社遺跡　大府市歴史民俗資料館
遺跡の種類　散布地　時代　弥生から中世
遺構は溝やピットで、遺物は弥生土器と土師

器（ﾊｼﾞｷ）がほとんどである。弥生土器の形態は高杯、甕(ｶﾒ)、壺、鉢、蓋(ﾌﾀ)の５種類に分類される。土師器の形態は高杯、甕、壺の３種類である。このほか、灰釉陶器や中世陶器も出土している。

(*2)　伊勢神宮の子安神社

（伊勢神宮　内宮所管社）

・子授け、安産、厄除けの神
・御祭神の木華開耶姫命が、猛火のうちに御身無事に、三柱の御子をお生みになられた霊異を仰いだものと思われます。

伊勢志摩観光ナビ　より

鳥居と拝殿の遠景

手前が拝殿　奥が本殿

本殿前の左右に境内社が鎮座している。

コノハナノサクヤビメ　とは

（ウィキペディアより抜粋）

木花之佐久夜毘売（このはなのさくやびめ）とは、日本神話に登場する女神

地上世界に降臨した邇邇芸命（ニニギノミコト）から求婚を受ける。父の大山津見神（ｵｵﾔﾏﾂﾐﾉｶﾐ）は姉の石長比売（イワナガヒメ）と共に嫁がせようとしたが、邇邇芸命は醜い姉を送り返し美しい妹の木花之佐久夜毘売とだけ結婚した。

一夜で身籠るが、邇邇芸命は自分の子ではないと疑った。疑いを晴らすため、誓約をして産屋に入り「天津神である邇邇芸命の本当の子なら何があっても無事に産めるはず」と産屋に火を放って、その中で火照命（ﾎﾃﾞﾘﾉﾐｺﾄ）・火須勢理命（ﾎｽｾﾘﾉﾐｺﾄ）・火遠理命（ﾎｵﾘﾉﾐｺﾄ）の三柱の子を産んだ。

火遠理命の孫が初代天皇の神武天皇である。

長男（海幸彦）次男（不明）三男（山幸彦）

子安神社　（ウィキペディアより抜粋）

子安神社は、主に安産・子育ての神が祀られている神社である。富士山（浅間神社）の祭神でもあるコノハナサクヤビメ祀る系統とスサノオの妻であるクシナダヒメを祀る系統などに分かれる。

県別の鎮座数

茨城県-３社　千葉県-６社　東京都-２社　神奈川県-１社　山梨県-２社　静岡県-４社　岐阜県-２社　愛知県-１社　石川県-２社　三重県-２社　岡山県-１社

愛知県は大府市、三重県の１社は伊勢神宮、岡山県は吉備津彦神社に鎮座となっている。

大府市と伊勢神宮に関しては、本稿で取り上げている通りである。

余談ですが、今年の春に名古屋駅の西側を散策していたら偶然にも子安神社を見つけました。この神社は以前にも来たことがありましたが、その時は子安神社は気にもかけませんでした。会報に子安神社を取り上げようとしていたので目についたのかもしれません。

熊野社（中村区権現通）

境内末社に「子安社」がある。享保 18 年(1733)鎮座。祭神は木花之佐久夜毘売命で安産の守護神。

（完）

＜大高のできごと　あれこれ＞
［令和６年（2024）４月～６月］

「花まつり」（4月8日）（月）

釈迦の生誕を祝う「花」まつり。小堂の水盤に立つ釈迦像に甘茶をかけます。その後、紙コップに注いで甘茶をいただきます。

長寿寺、薬師寺、春江院にて行われました。

「あいち都市緑化フェアー」（4月29日）（月）

大高緑地にて第36回あいち都市緑化フェアーが開催されました。

大高地域観光推進協議会として参加し、テントの中では観光パネルの展示や御城印、砦印、絞り巾着袋、等を販売し、テント外ではクイズ、シャボン玉を提供してフェアーを盛り上げました。

「頭人祭」（5月6日）（月）

当日は晴天の下、熱田神宮から頭人と言われる使者が氷上姉子神社をお参りし神事の後、頭人自らが描いた鷹の絵馬を神殿に奉納する「頭人祭」が行われました。

神事終了後、縁起物の粽（ちまき）が神殿前にて参拝者に配られました。

「鷲津砦慰霊祭」（5 月19日）（日）

桶狭間の戦いの前哨戦である鷲津砦の戦いで犠牲になった戦没者の霊を慰める式典が大高北学区中之郷町内会連合会主催で行われました。

「丸根砦慰霊祭」（5 月19日）（日）

同じく丸根砦の戦いの戦没者慰霊祭も晴天の中、丸根砦慰霊奉仕会主催のもと行われました。

鷲津砦慰霊祭

丸根砦慰霊祭

「大高緑地プール解体工事」

長い間、遊休していたプール全体が解体され広いエリアが更地になりつつあります。7月中に完了予定。

緑地プールは昭和45年（1971）11月に竣工以来、大人気となり最盛期には自由に泳ぎができない位の賑わいだった。跡地利用は計画中です。

「熱田神宮大高斎田御田植祭」　（6月23日）（日）

梅雨空の下、御田植祭が熱田神宮大高斎田にて執り行われました。テント内での神事の後、早乙女による田舞や奉耕者と一体化した田植え儀式も加わりイベントに花を添えました。

MRF（緑区ルネッサンスフォーラム）、大高地域観光推進協議会共催の散策会も行われ盛況でした。

大高の行事予定（2024 年7月～2024 年10月）

7月24日（月）に西口地蔵尊　地蔵盆　9時10分～
7月30日（土）大高・大高北学区合同納涼夏祭り
8月1日（火）龍宮社例祭（旧6月15日）19時30分～
9月15日（日）城山八幡社例大祭
9月16日（月）大高地域敬老祝賀式典
9月22日（日）下村神明社例大祭　11時～　田中神明社例大祭　13時30分～
10月5日～10 月6日（土・日）大高祭礼（氷上姉子神社例大祭）

＜大高歴史の会のあゆみ＞
［令和６年（2024）４月～６月］

＜例会＞［第 2･第 4 月曜日 9：30～12：00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催］

第 319 回（4/8）　花見会　大高城址公園にて満開の桜鑑賞後、八幡社参集所にて花見食事会
第 320 回（4/22）　ほだかの里だより第 20 号
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて［第 20 回］旧知多郡大高町役場跡地碑
P12 史跡説明板の紹介［第 1 回浜鳥居跡］
ナゴヤ歴史探検　P88～89　「戦争をしるためのフィールドワーク」
第 321 回（5/13）　ほだかの里だより第 21 号
P１～3（留と小春の歴史茶話）大高あれこれ３＜鷲津砦跡・丸根砦跡＞
P4～6　子どもの頃の思い出を語る
第 322 回（5/27）　P 6～8　土蔵のある風景
P 9　＜大高のできごと　あれこれ＞［平成 28 年（2016）1－3 月］
P 10　＜大高歴史の会のあゆみ＞［平成 28 年（2015）1－3 月］
第 322 回（6/10）　P11 大高の歴史的石造物を訪ねて［第 21 回］佐野寅三郎之碑
P12 史跡説明板の紹介［第 2 回浜宮跡］
ヤマトタケルとミヤスヒメの講和　講師：深谷
第 323 回（6/24）　大高史料館・集会所の清掃と DVD 鑑賞

＜その他の活動＞［会のあれこれ情報］

「会報第 53 号(令和６年冬号)発行」（4 月 12 日）
約 670 部、印刷、於　緑区社会福祉協議会。丁合は４月 22 日に実施

「野外学習　桑名散策会」（4 月 4 日）
JR と近鉄を乗り継ぎ桑名へ　8 名参加（男女各４名）
桑名では現地ボランティアガイドの案内により六華苑、七里の渡しを見聞。終了後は名物のハマグリ料理に舌鼓を打った。

七里の渡し案内板

「花まつり、花見会」（4 月 8 日）例会終了後、徒歩で薬師寺へ行き、花まつりの参詣、甘茶をいだいた後、大高城跡公園にて満開の桜を満喫　１２名参加。その後、八幡社参集所に戻り心行くまでの“楽しいひととき”を過ごした。

「緑区観光推進協議会総会」（5 月 10 日）代表が出席
区役所にて開催され、昨年度事業、決算、監査報告と本年度の計画予算案が審議・承認された。

［まちかど案内板の更新完成］
昨年 12 月にシロアリにより損傷、倒壊していた長寿寺山門脇の“久野広成”案内板本体が浜島鐘政会員により手作りにて完成し元の場所に設置され見事に蘇った。

久野広成案内板

＜ガイド実績＞　史跡・町並み**散策ガイド依頼受付窓口**：　深谷篤　090-8952-8610
5 月　6 日（月）頭人祭見学ツアー　　10 名（深、）
5 月 29 日（木）氷上姉子神社周辺散策　共和西老人会　22 名　（深）
6 月 23 日（日）大高斎田お田植祭見学ツアー　22 名（深）

ガイド実績　（４－６月）　３件　５４　名

大高「山口」の歴史探索（その1）

山口　初宏

大高には「山口」姓が多く見うけられる。筆者が小学生の頃はクラス内に10名以上の生徒がいて山口さんと呼ばれたらみんなが同時に手を挙げたものだ。そのため姓ではなく名前で呼ばれるようになっていた。私の場合はハツヒロだ。

当時は耳慣れないので恥ずかしい思いだったが時を重ね社会へ出てみたら普通に山口さんと呼ばれて安堵したものだ。

さて、前置きが長くなったが、この度、鳴海町にお住いの山口家第72代目にあたる、山口定成氏から「山口家の歴史」という220ページにわたる壮大な家譜をいただいた。

早々に拝読を賜った所、誠に興味深い内容で読者皆様の知見を深めることに役立つと思い、その一部を抜粋して本稿を執筆した。大高山口姓の誕生には諸説あるが一説として読んでいただければ幸いである。

1　祖は琳聖太子

山口家の家系を遡ると大内氏に至り、始まりは朝鮮半島の百済王族である琳聖太子である。

太子は611年に百済国から周防国多々良浜（山口県防府市多々良）へ上陸。聖徳太子から多々良性と共に領地として大内県を賜ったとされている。

琳聖太子は百済国の第26代聖明王と側室靖翔妃の間に生まれた子供で第3皇子であるが跡目争いに巻き込まれたため推古16年（611）、一族郎党を引き連れて日本に渡航した。

大内県で豪族の大内首運速男の娘、矢田の郎女を妻に迎えてこの地を治めることになった。

2　大内氏と妙見信仰

大内氏は道教由来の妙見信仰の念が篤く鷲頭庄の妙見社から妙見尊星王を勧請し周防国山口の氷上山（現在の山口市大内氷上）の氷上山興隆寺を総氏寺と定めて加護した。妙見菩薩は北辰（北極星）を神格化したものである。

3　大内氏の出自

琳聖太子の末裔説の真偽は確定できないが大内氏の判明している初代は正恒になる。周防国吉敷郡大内村（山口市大内）に住んで多々良姓を称していたとする説が有力である。

多々良氏は平安時代から周防国の在庁官人として勢力を扶植し、末期の多々良盛房は周防権助として初めて大内介と名乗った。鎌倉時代になると大内氏は周防国を完全に掌握することに成功して幕府の御家人になった。

4　守護大名大内氏の勢力拡大

52代大内義弘は南北朝の争乱では南朝に付くが後に北朝に帰順して九州の菊池氏らと戦い幕府から周防、長門、石見の守護職に任じられた。その後も武功著しく豊前、和泉、紀伊の守護職を与えられた。同時に本拠がその大陸に近い地理を生かして朝鮮との貿易を営み巨万の富を蓄えた。

5　応永の乱

3代将軍足利義満は守護大名の弱体化を図り、その一環として大内義弘に上洛を促したが「意に沿わないことがある」と命令を拒否し続けたため、応永6年（1399）10月28日に討伐を命じる治罰

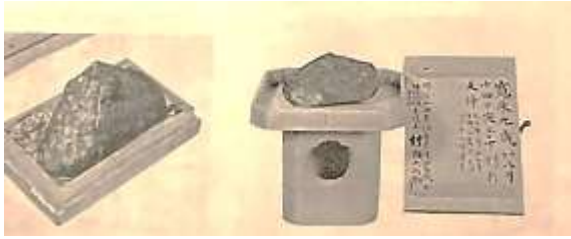
御教書を出した。この事件は「応永の乱」といわれ、義弘は奮戦の末、堺で敗死した。

6　山口氏の祖となった大内持盛

義弘が戦死した後、大内氏の当主となったのが弟の大内盛見であった。盛見は叔父として遺言にて義弘の子のうち兄、持世に大内家の家督と長門国を除く所領を継がせ、弟の持盛には長門国守護職を与えるように残したが、兄弟仲が悪く持世が九州出陣の隙に持盛が山口を占領。（この時に**山口姓を名乗った。**）しかし、持盛は持世の攻撃を受けて永享5年（1433）に討死。持盛の息子教幸は出家して道頓と名乗ったが、応仁の乱の最中に反乱を起こし、一時、大内氏当主の座に就くも鎮圧され、豊前に逃れ消息不明になった。教幸の子、任世（にんせい、ただよ）は赦されて山口に戻ったが、己が一族の滅亡を恐れて山口を離れ、縁者を頼り尾張に移住して山口姓（山口海老之丞任世）を名乗り、笠復寺（笠寺観音）を経て星崎城に移り住み腰を据えた。

星崎城址　南区元星崎町

理由としては当時、知多半島の付け根付近は織田氏と今川氏が争っていた地域で、新たな拠点が設けやすく現に同族が定着していたこと。さらに笠覆寺が古来、亀を大事にする寺院で仁王池に亀が放生されていたこと、星崎に星宮社があることが考えられる。亀は妙見信仰では神獣であり星宮社は星そのもの、隕石を祀っていたからである。



南野隕石（呼続神社蔵）

その後、任世は弘治元年（1555）4 月の清州攻めの際、勇戦虚しく討死した。

任世の後は養子になった教仲になる。教仲は任世の従弟にあたり、弘治2年（1556）3月、徳川家康（松平元康）の母方、水野大膳に属し織田勢として当初、大高城に入城していたとされる。永禄 3 年（1560）5月18日、桶狭間の戦いの前日、丸根・鷲津砦に籠り、今川方の大高城主鵜殿長照勢との戦いにて討死。教仲の後は養子の重國が継ぎ、後の3代は兄弟で家督を順次、相続した。59代の山口重治は、豊臣の時代になると水野氏が大高城を去ったため、禄を離れて大高村で帰農し、身分の正しさから代官庄屋を勤め、大高の籠池新田等を開発した。

ところで、山口諸家には3本の系図が伝来している。その源は同じで百済の琳聖太子から周防大内を経て尾張山口氏が生まれた所までは共通しているがその後、一族の繁栄に伴い、それぞれ分化したと思われる。　（続）

説明ガイドさん＆新規会員
募集中です！
連絡先（０５２）６２３－２３０７）

大高の歴史を学び伝える
大高の歴史の会　会報
第54号 2024 年4月
〔平成21年（2009）4月発足〕

連絡先　（代表）　：　山口　初宏
〒459-8001
名古屋市緑区大高町字天神44
052－623－2307
散策関係　担当　：　深谷　篤
090－8952－8610

会報は年4回発行の予定です
（冬1月、春4月、夏7月、秋10月）
会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

（本号の編集は山口初宏が担当しました）